



2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年5月14日

上場会社名 株式会社カネカ
 コード番号 4118
 代表者 (役職名) 代表取締役社長

上場取引所 東
 URL <https://www.kaneka.co.jp/>
 (氏名) 藤井 一彦

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員IR・広報 (Investors & Public Relations) 部長 (氏名) 石田 修 (TEL) 03-5574-8090

定時株主総会開催予定日 2024年6月27日 配当支払開始予定日 2024年6月6日

有価証券報告書提出予定日 2024年6月27日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期の連結業績(2023年4月1日~2024年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	762,302	0.9	32,579	△7.1	29,222	△9.8	23,220	0.9
2023年3月期	755,821	9.3	35,087	△19.5	32,411	△20.6	23,008	△13.1

(注) 包括利益 2024年3月期 51,300百万円(28.0%) 2023年3月期 40,064百万円(5.8%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年3月期	357.90	356.87	5.3	3.5	4.3
2023年3月期	349.59	348.66	5.7	4.3	4.6

(参考) 持分法投資損益 2024年3月期 177百万円 2023年3月期 137百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期	870,205	474,383	52.1	7,068.91
2023年3月期	782,640	436,422	53.3	6,431.63

(参考) 自己資本 2024年3月期 453,463百万円 2023年3月期 417,372百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年3月期	61,911	△58,771	△1,519	43,278
2023年3月期	28,710	△41,970	12,352	40,699

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額(合計)	配当性向(連結)	純資産配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年3月期	—	55.00	—	55.00	110.00	7,254	31.5	1.8
2024年3月期	—	55.00	—	55.00	110.00	7,098	30.7	1.6
2025年3月期(予想)	—	60.00	—	60.00	120.00		30.9	

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	790,000	3.6	38,000	16.6	34,000	16.3	24,500	5.5	388.18

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期	66,000,000株	2023年3月期	68,000,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期	1,851,007株	2023年3月期	3,106,293株
③ 期中平均株式数	2024年3月期	64,879,390株	2023年3月期	65,815,697株

(参考) 個別業績の概要

1. 2024年3月期の個別業績（2023年4月1日～2024年3月31日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	366,950	△0.6	7,201	△44.1	16,041	△26.3	17,770	△13.5
2023年3月期	369,172	10.3	12,893	△8.0	21,765	△32.8	20,536	△27.6
	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益					
	円 銭		円 銭					
2024年3月期	273.90		273.11					
2023年3月期	312.03		311.20					

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期	593,312	303,364	51.0	4,718.95
2023年3月期	545,286	285,398	52.2	4,388.34

(参考) 自己資本 2024年3月期 302,715百万円 2023年3月期 284,775百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料7ページ「1. 経営成績等の概況（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	P. 2
(1) 当期の経営成績の概況	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 6
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	P. 6
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 7
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	P. 9
3. 連結財務諸表及び主な注記	P. 10
(1) 連結貸借対照表	P. 10
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	P. 12
(3) 連結株主資本等変動計算書	P. 14
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	P. 16
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	P. 18
(継続企業の前提に関する注記)	P. 18
(セグメント情報等)	P. 18
(1株当たり情報)	P. 22
(重要な後発事象)	P. 22

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

➤ 世界経済の状況 —分断と経済のVolatility—

当期（2023年4月～2024年3月）の世界経済は、コロナ禍は期中に終焉しましたが、ウクライナ問題の長期化、中東での新たな紛争の勃発など地政学リスクが終息せず、景気の先行きが見通せない不安な状況が続きました。インフレに腐心する米欧の金融政策の混乱、米中摩擦、中国経済の低迷など、世界経済は方向感のないVolatileな一年になりました。

日本はといえば、「円安」が止まらない。経済・金融政策が行き詰まりGDPは世界4位に落ち5位をうかがう。国づくりの一大事に歯止めがかからない。

世界は国や地域ごとに分断し、景気及び成長のシンクロしたシナリオが予見できない。

このように「分断とVolatility」に翻弄される不透明な時代をむかえています。当社のDNAである地域に根を張ったグローバル活動に磨きをかけ、「R2B“カネカならでは”」の研究開発戦略で新製品・新規事業の実装化を加速させてまいります。

技術に磨きをかけてポートフォリオを新しくし、業容を拡大します。何よりも人がすべてです。

➤ 当社グループの業績 —増収減益、下期大幅増益—

このような状況下、当社グループの当期の連結業績は、

売上高 762,302百万円（前年比0.9%増）

営業利益 32,579百万円（前年比7.1%減）

経常利益 29,222百万円（前年比9.8%減）

親会社株主に帰属する当期純利益 23,220百万円（前年比0.9%増）

となりました。

2024年3月期 連結業績 (単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	増減
売上高	755,821	762,302	6,480 (0.9%)
営業利益	35,087	32,579	△2,508 (△7.1%)
経常利益	32,411	29,222	△3,188 (△9.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	23,008	23,220	212 (0.9%)

セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	2023年3月期					2024年3月期					前年同期比
	売上高					営業利益					
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	計	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	計	
Material SU	88,919	83,975	77,812	83,147	333,854	77,659	78,814	81,444	84,982	322,902	△10,952 (△3.3%)
Quality of Life SU	45,000	42,194	43,812	41,758	172,766	40,878	43,880	46,638	44,785	176,182	3,415 (2.0%)
Health Care SU	16,623	17,369	18,658	18,134	70,786	17,745	18,448	17,209	21,452	74,856	4,069 (5.7%)
Nutrition SU	41,879	44,091	46,018	45,350	177,339	46,037	46,006	49,038	46,099	187,182	9,843 (5.6%)
その他	316	231	240	286	1,074	419	226	280	252	1,178	103 (9.7%)
計	192,739	187,863	186,541	188,678	755,821	182,740	187,376	194,611	197,574	762,302	6,480 (0.9%)

	2023年3月期					2024年3月期					前年同期比
	売上高					営業利益					
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	計	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	計	
Material SU	10,756	7,947	3,767	4,978	27,449	5,513	6,610	6,996	8,375	27,495	45 (0.2%)
Quality of Life SU	4,600	4,069	4,386	3,075	16,131	2,939	4,159	4,655	3,607	15,361	△769 (△4.8%)
Health Care SU	3,856	3,653	4,471	3,701	15,682	2,967	2,926	2,451	4,596	12,941	△2,740 (△17.5%)
Nutrition SU	806	1,296	2,290	3,192	7,585	2,277	2,298	3,820	3,680	12,076	4,490 (59.2%)
その他	186	95	112	159	554	288	101	151	125	667	113 (20.4%)
調整額	△7,994	△8,460	△8,221	△7,640	△32,316	△8,381	△9,093	△9,070	△9,417	△35,963	△3,646 (-)
計	12,212	8,601	6,808	7,465	35,087	5,603	7,002	9,004	10,968	32,579	△2,508 (△7.1%)

➤ 全社業績についてのRemarks

①急ピッチな業績の回復

今期の全社業績の特徴は、営業利益が1 Q (56億円) を底に、2 Q (70億円)、3 Q (90億円)、4 Q (110億円) と期を追うごとに回復の足取りを速めたこととあります。

インフレの影響による欧米の建築需要の低迷やエレクトロニクス市場の在庫調整など重い負の力が残っているものの、下期に入って業績は急ピッチで収益回復に転じました。ポストコロナの極めてVolatileな需要変動を主因に低迷した上期でしたが、下期には各SVの強いモメンタムが戻ってきました。

特に4 Qは、MOD・MS・E&IなどR2Bで成果を狙う海外事業型SVや他にはないユニークなニッチ技術を生かした開発戦略に舵を切っているSupplement・Foods (Nutrition SU)が貢献して、営業利益110億円を実現しました。Medicalは順調に拡大し、Vinyl・Foamも最悪期を脱しました。

今期営業利益 上・下期比較

(単位：億円)

	営業利益				
	2023年3月期		2024年3月期		
	上期	下期	上期	下期	増減
Material SU	187	87	121	154	32
Quality of Life SU	87	75	71	83	12
Health Care SU	75	82	59	70	12
Nutrition SU	21	55	46	75	29
計	208	143	126	200	74

下期営業利益 対前年下期比較

(単位：億円)

	営業利益		
	2023年3月期	2024年3月期	増減
	下期	下期	
Material SU	87	154	66
Quality of Life SU	75	83	8
Health Care SU	82	70	△11
Nutrition SU	55	75	20
計	143	200	57

②ポートフォリオ変革をドライブする先端事業

Medical・Supplement・MS・E&I・PVは、当社の差別力ある特異な技術やオープンイノベーションの取り組みが実を結び、業績は着実に伸長しました。

Medicalの業績は順調に拡大しました。医療技術の高度化が発展の原動力である事業であるため、医師からの高い信頼を得ている日本の事業モデルを武器に、M&A、技術提携などオープンイノベーションに積極的に取り組んでいます。米国・中国・アジアなど海外が次の一手でありR2Bの強化・販売体制の再構築に全力傾注しています。当社の成長をけん引する事業に育ててまいります。

Pharmaは需要調整が続き低調に推移しましたが、4Qは大幅に回復に転じました。バイオCDMO・低分子医薬において、顧客との共同開発活動が進み、モメンタムを取り戻しています。次期に向けて、国内外市場での更なる大型案件の獲得を積極的に進めています。

③コア事業の健闘

ポストコロナ禍のVolatilityを原因に欧米市場の需要が急冷したMODは、過剰な市場在庫・世界的な需給バランスの悪化の峠は越えました。今期上・下の比較、今期と前期の下・下の比較では、いずれも大幅な増益を達成しています。

MODと同じく、技術の差別化力を強化してスケールあるグローバルニッチ市場を創出する活動に注力しているVinyl・Foamも最悪期を脱出しました。汎用市場の需給が崩れ市況が悪化したVinyl & Chlor-Alkaliはショートバランスであったコロナ期の収益力には戻らないものの、安定した業績で推移しております。

Fiberは、1Qに底を打ち回復をめざしていますが、アフリカ諸国のインフレ長期化・通貨安に伴い、4Qは一時的に需要調整が続く局面となっています。製品を高機能化しカネカロンならではの特徴ある繊維が提案できるR2B活動を鋭意進めています。また頭髪分野では、Domainを広げ、ナイジェリアを軸にしながらも、サブサハラアフリカや北中南米での販売を強化しています。

Foods & Agrisは、高付加価値品への販売シフトとスプレッドの拡大が更に進み、収益性が大幅に向上しました。引続き高水準の業績を維持していく計画です。

Pur Natur乳製品、Q10 ヨーグルト・グミ、有機A2牛乳、ブノワニアン・ベルギーチョコレートなどの新規事業は快走しておりFoods事業のポートフォリオ変革をリードしています。

④成長に向けた投資計画の進捗

Medicalは、北海道・苫東の血液浄化器新工場が今期2Qに稼働予定です。更に生分解性マグネシウムステント技術を持つ会社の買収や、血栓回収用ステントの輸入販売など、Open Innovationによるカテーテル製品のラインアップ拡充が進みました。

Pharmaのカネカユーロジェンテックでは、遺伝子治療やがん治療薬用で高成長が期待されるmRNA生産設備の建設が計画通り進んでいます。

Material系では、使い捨てプラスチックの廃棄を減らし地球環境を守ることをめざすカネカ生分解性バイオポリマー「Green Planet」の量産実証プラントの建設が順調に進んでいます。また、グローバルな需要増が見込まれるMSのベルギーでの能力増強も今春計画通り完成する予定です。

高砂の石炭ボイラーを廃止する大型設備投資を決定しました。革新的プロセスを導入した自家発電設備の燃料転換を機に、一層の省エネに取り組み、2050年のカーボンニュートラルをめざします。

先端事業の成長を加速させる投資や、コア事業の基盤強化のための投資を積極的に進めてまいります。

各セグメントの状況は次のとおりです。

① Material Solutions Unit

当ユニットは、欧米・アジアの景気低迷の影響を受け上期は減益となりましたが、下期は需給の回復により大幅な増益となりました。年間でも前年に並ぶ水準まで回復しました。

- Vinylsは、塩ビ・か性ソーダともにアジア市況の下落の影響を受けましたが、3Qから業績を回復させています。
- MODは、年間を通して需給調整が続きましたが、3Qから全拠点で需要が回復し下期は対前年比で大幅な増益となりました。事業競争力強化の取り組みが着実に進み、収益力が向上しました。
- MSは、他にはないユニークな機能特性が評価され、販売が堅調に推移しました。今後は今春完工するベルギーの生産能力増強を最大限に活かし、業容拡大をめざします。
- Green Planetは、大手ブランドホルダーとの共同開発が進み、新たなアプリケーションでの採用案件が増加しました。

② Quality of Life Solutions Unit

当ユニットは、Foam、E&I、PVで増収増益となりました。Fiberは需給調整が続き、全体として増収減益となりました。

- Foamは、スプレッドが改善し、全体としては増収増益となりました。発泡ポリオレフィン、自動車分野の販売が回復し、EV用途での採用も拡大しています。
- PVは、国内で戸建て住宅向け高効率太陽電池の販売が堅調に推移しました。政府のGX推進や自治体の再エネ活用義務化の動きが拡大しており、当社製品への注目度は更に高まりました。壁・窓が発電するZEB需要を喚起するため、大成建設と共同販売会社を設立しました。
- E&Iは、スマートフォンの生産調整に伴い、上期はポリイミド出荷も影響を受けましたが、3Q以降は中国市場を中心に需要は回復しています。大型TV向けアクリル樹脂は一時的な需要調整があったものの、4Q以降は回復しています。
- Fiberは、アフリカ諸国のインフレ及び通貨安の影響が大きく需要が低迷しました。

マーケティング戦略の強化や高機能新製品の投入を積極的に進め、末端需要の喚起に注力します。

③ Health Care Solutions Unit

当ユニットは、Medicalは順調に業容が拡大しました。
Pharmaは3Qまでの出荷調整の影響を受けました。
全体として増収減益となりました。

- Medicalは、北海道の血液浄化器の新工場が稼働予定です。
引続き経営資源を積極的に投入してまいります。
- Pharmaは、低分子及びバイオ医薬品の顧客での需要調整が想定以上に続きましたが、4Q以降需要は回復基調にあります。
mRNAについては、生産体制を強化し、遺伝子疾患やがん治療薬用での採用に注力します。

④ Nutrition Solutions Unit

当ユニットは、Foods・Supplementともに好調を維持し、
大幅な増収増益となりました。

- Supplementは、米国の還元型Q10の販売が堅調に推移しました。
アジア・オセアニアでの販売が伸長しています。
乳酸菌事業も着実に拡販が進んでいます。最大市場の米国での販売拡大が課題であり多様な新製品の上市や生産基盤の強化に注力します。
- Foods & Agrisは、スプレッドの改善が進み収益が大幅に伸長しました。
有機乳製品をはじめヨーグルトなど付加価値の高い「B2C」事業を積極的に推進し業容拡大をめざします。

(2) 財政状態に関する説明

当期末の総資産は、設備投資の拡大による固定資産増加に加え、保有株式の時価上昇による投資有価証券の増加、円安による海外グループ会社の資産額増加等により、前期末に対して87,565百万円増加の870,205百万円となりました。

負債については、借入金の増加及び社債の発行等により49,604百万円増加の395,822百万円となりました。

純資産については、利益剰余金の増加に加え、円安による為替換算調整勘定の増加、保有株式の時価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加等により37,960百万円増加の474,383百万円となり、自己資本比率は52.1%となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当期における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益や減価償却費等により61,911百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等により58,771百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、社債発行による収入の一方、配当金の支払や自己株式の取得により1,519百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の残高は、43,278百万円となりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

➤ カネカのパーパス経営

自然環境にますます負荷がかかり、人間の行動が危険な気候変動や大量絶滅をもたらしかねません。そのリスクを減らすうえで、自然に対する理解を深め、適切なテクノロジーを一層迅速に配備する必要があります。この視座こそが「カガクでネガイをカナエル会社ーカネカ」がめざすパーパス経営です。

当社は、環境・エネルギー、食糧、健康（よりよく生きる）の危機の三つをドメインとしてテクノロジーに磨きをかけ、社会実装化による最適なソリューションを提供したいと考えています。

➤ ハイブリッド経営

イノベーションとは「違ったやり方でコトを運ぶ新結合」のことです。異質なもののどうしを、異質な事業領域で、新しく組み合わせることをカネカは「ハイブリッド経営」と呼んでいます。カネカが保有する多種多様な異種技術による驚きの組み合わせで、独創的な価値あるソリューションを創り出す「ハイブリッド経営」を通じて社会問題の解決に貢献してまいります。

➤ R2B+P ResearchからBusinessへの流れの加速

「R&B+P」から「R2B+P」へ。研究開発とビジネスとの結合を進め、ResearchからBusinessへの流れを一層加速させます。独創的な優れた素材を創出しソリューションを世界の市場に提供します。

「R2B」と「P」（モノづくり）が一体となった取り組みを強化し、モノづくり起点で事業の最大化とマネタイズに拘り新製品事業化のスピードとスケールを向上させます。

➤ ライフサイエンスへの重点シフト

化学で「地球生命」という大きな「いのち」を健康にする、そのテクノロジーと創造的な活動が「ライフサイエンス」の定義です。カネカ生分解性バイオポリマーGreen Planet、ゲノム編集技術、バイオ医薬品、再生・細胞医療、有機酪農乳製品事業、サプリメント、発酵培養プロセス技術などカネカの「バイオものづくり」やPV Technology、医療器は、すべて「地球生命」という大きな「いのち」に繋がっています。

カネカは、ライフサイエンス領域での「R2B」に挑戦することで、ポートフォリオ変革をドライブします。

➤ Think Global, Act Local

地域に根差した事業展開を可能にするグローバルネットワークが当社の強みです。

ソリューションを世界の隅々に届け人々の命や社会課題を解決することを使命とし、文化の違いを乗り越えた現地発信（グローバル）に

フォーカスします。グローバルに存在感のある企業をめざします。経営資源を広く世界に求め、M&A、技術・業務提携、Open Innovationを積極的に推進しグローバルでの事業構造変革と飛躍的成長に繋がります。

➤ Diversity 新たな価値の創造と女性の活躍

「年齢・性別・国籍・人種（属性）を問わず、多様な個性と多彩な視点から新たな発想が生まれ、カネカならではの！と世界を驚かせるユニークな価値を発信し続ける」

当社がめざすDiversityの姿です。特に女性活躍を推進し成長と変革を牽引する女性リーダー層の育成強化に取り組んでいます。

「人は仕事で成長し、会社は人で成長する」の考えに基づき導入・定着させた『カネカ1on1』を、新たなステージ『カネカ1on1X』へ進化させ、個人の成長と組織の成果を高めめます。

今年も「-Trust & Respect- 人間賛歌の経営」に取り組んでいきます。

➤ カーボンニュートラル・DXの取り組み

カネカは2030年にGHG排出量を30%削減することをめざしています。

2050年にはカーボンニュートラルを実現することが目標です。

自家発電設備の燃料転換やプロセス革新によるエネルギー消費量削減に取り組めます。

また、DXの取り組みを強化し、R2B+Pを通じた価値創出を大幅に加速させます。最先端の技術を取り入れた生産プラントへ進化させ、未来の製造現場をつくり上げます。

研究開発、営業、SCM、バックオフィスの業務革新を進めるために最新のデジタル技術を使った全社デジタルプラットフォーム構想にも取り組んでいます。

➤ 2025年3月期の連結業績見通しについて

IMFは、世界経済成長率は2023年3.2%、2024年・2025年も同じペースが続くと予想しています。

世界のインフレは鈍化していく見通しではあるものの、世界経済の成長に向けた道筋は未だ不透明な状況です。

かように世界経済のVolatilityと経営環境の不透明な状況が継続するものの、当社はグローバルにAdaptability力を発揮しながら、大きな成長が見込まれるライフサイエンスや先端事業に戦略的に経営資源を投入し新規事業の社会実装に注力します。

2025年3月期は、Medical・Pharma (Health Care SU) 及びFoods・Supplement (Nutrition SU) が健康志向を強める時代ニーズを取り込んで全社の成長を牽引します。

E&Iをはじめとする先端事業はR2Bの成果を加速する年となります。

MOD・MSは、新しい成果の刈り取りが始まります。

コア事業のVinyl & Chlor-Alkali・Foam・Fiber は確かな足取りで全社業績を支え、安定した収益を上げる見通しです。

2025年3月期（2024年4月1日～2025年3月31日）

	当期実績 2024年3月期	業績予想 2025年3月期	増減
売上高（百万円）	762,302	790,000	27,697 (3.6%)
営業利益（百万円）	32,579	38,000	5,420 (16.6%)
経常利益（百万円）	29,222	34,000	4,777 (16.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	23,220	24,500	1,279 (5.5%)
1株当たり当期純利益 （円）	357.90	388.18	30.28

セグメント別業績予想

（単位：百万円）

	売上高			営業利益		
	当期実績 2024年3月期	業績予想 2025年3月期	増減	当期実績 2024年3月期	業績予想 2025年3月期	増減
Material SU	322,902	325,000	2,097 (0.6%)	27,495	28,000	504 (1.8%)
Quality of Life SU	176,182	187,000	10,817 (6.1%)	15,361	17,500	2,138 (13.9%)
Health Care SU	74,856	89,000	14,143 (18.9%)	12,941	16,000	3,058 (23.6%)
Nutrition SU	187,182	188,000	817 (0.4%)	12,076	13,000	923 (7.6%)
その他	1,178	1,000	△178 (△15.1%)	667	500	△167 (△25.1%)
調整額	-	-	-	△35,963	△37,000	△1,036 (-)
計	762,302	790,000	27,697 (3.6%)	32,579	38,000	5,420 (16.6%)

次期の為替レート及び原料価格については、米ドルは140円、ユーロは155円、国産ナフサ価格は65,000円/KLを想定しております。

※ 上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、日本基準を適用しております。現時点では国際財務報告基準（IFRS）の適用は未定ですが、今後も情報収集を継続してまいります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	41,774	43,969
受取手形、売掛金及び契約資産	170,154	186,371
有価証券	94	-
商品及び製品	89,223	94,734
仕掛品	13,317	11,678
原材料及び貯蔵品	65,574	70,883
その他	18,327	23,122
貸倒引当金	△1,502	△1,898
流動資産合計	396,964	428,861
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	96,399	98,883
機械装置及び運搬具（純額）	107,829	107,975
土地	33,079	34,475
リース資産（純額）	15,412	17,681
建設仮勘定	32,062	63,707
その他（純額）	7,831	8,596
有形固定資産合計	292,615	331,319
無形固定資産		
のれん	2,201	1,859
その他	13,987	18,973
無形固定資産合計	16,189	20,832
投資その他の資産		
投資有価証券	57,422	70,150
出資金	970	520
長期貸付金	597	529
長期前払費用	2,489	2,776
繰延税金資産	4,450	2,766
その他	11,223	12,738
貸倒引当金	△283	△290
投資その他の資産合計	76,870	89,191
固定資産合計	385,675	441,344
資産合計	782,640	870,205

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	88,663	104,212
短期借入金	116,491	116,532
1年内償還予定の社債	-	5,000
リース債務	1,037	940
未払金	25,862	35,227
未払費用	14,708	15,887
未払法人税等	5,055	4,963
未払消費税等	640	1,307
役員賞与引当金	119	123
その他	5,663	7,469
流動負債合計	258,242	291,666
固定負債		
社債	10,000	15,000
長期借入金	33,706	40,391
リース債務	14,709	17,232
繰延税金負債	1,705	9,493
退職給付に係る負債	20,829	12,585
役員退職慰労引当金	318	346
製品保証引当金	2,057	1,808
その他	4,648	7,296
固定負債合計	87,974	104,156
負債合計	346,217	395,822
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	32,245	29,173
利益剰余金	323,213	331,933
自己株式	△11,407	△6,797
株主資本合計	377,098	387,355
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,204	32,632
繰延ヘッジ損益	△3	△0
為替換算調整勘定	11,543	22,037
退職給付に係る調整累計額	6,529	11,438
その他の包括利益累計額合計	40,273	66,107
新株予約権	622	648
非支配株主持分	18,427	20,271
純資産合計	436,422	474,383
負債純資産合計	782,640	870,205

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上高	755,821	762,302
売上原価	556,895	558,087
売上総利益	198,926	204,214
販売費及び一般管理費	163,838	171,635
営業利益	35,087	32,579
営業外収益		
受取利息	222	224
受取配当金	1,694	1,806
為替差益	1,888	2,544
持分法による投資利益	137	177
その他	1,008	958
営業外収益合計	4,951	5,713
営業外費用		
支払利息	1,965	3,361
固定資産除却損	1,839	1,722
休止固定資産減価償却費	1,147	1,171
その他	2,675	2,814
営業外費用合計	7,627	9,069
経常利益	32,411	29,222
特別利益		
投資有価証券売却益	1,410	7,060
事業譲渡益	-	525
特別利益合計	1,410	7,586
特別損失		
投資有価証券評価損	1,448	-
特別損失合計	1,448	-
税金等調整前当期純利益	32,373	36,808
法人税、住民税及び事業税	9,010	10,575
法人税等調整額	△711	1,458
法人税等合計	8,298	12,033
当期純利益	24,074	24,775
非支配株主に帰属する当期純利益	1,066	1,554
親会社株主に帰属する当期純利益	23,008	23,220

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当期純利益	24,074	24,775
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	882	10,476
繰延ヘッジ損益	0	3
為替換算調整勘定	7,594	11,133
退職給付に係る調整額	7,509	4,909
持分法適用会社に対する持分相当額	1	1
その他の包括利益合計	15,989	26,525
包括利益	40,064	51,300
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	38,549	49,054
非支配株主に係る包括利益	1,515	2,246

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	33,046	31,392	309,507	△11,528	362,417
当期変動額					
剰余金の配当			△7,599		△7,599
親会社株主に帰属する当期純利益			23,008		23,008
自己株式の取得				△8,051	△8,051
自己株式の処分			△5	30	25
株式交換による変動		789	△1,696	8,142	7,235
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		63			63
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	853	13,706	121	14,681
当期末残高	33,046	32,245	323,213	△11,407	377,098

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	21,331	△4	4,381	△975	24,732	619	24,435	412,204
当期変動額								
剰余金の配当								△7,599
親会社株主に帰属する当期純利益								23,008
自己株式の取得								△8,051
自己株式の処分								25
株式交換による変動								7,235
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動								63
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	873	0	7,162	7,504	15,541	3	△6,007	9,537
当期変動額合計	873	0	7,162	7,504	15,541	3	△6,007	24,218
当期末残高	22,204	△3	11,543	6,529	40,273	622	18,427	436,422

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	33,046	32,245	323,213	△11,407	377,098
当期変動額					
剰余金の配当			△7,139		△7,139
連結範囲の変動			△12		△12
親会社株主に帰属する当期純利益			23,220		23,220
自己株式の取得				△2,814	△2,814
自己株式の処分			△3	78	75
自己株式の消却			△7,344	7,344	-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△269			△269
非支配株主に係る売建プット・オプション負債の変動等		△2,802			△2,802
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	△3,072	8,719	4,609	10,257
当期末残高	33,046	29,173	331,933	△6,797	387,355

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	22,204	△3	11,543	6,529	40,273	622	18,427	436,422
当期変動額								
剰余金の配当								△7,139
連結範囲の変動								△12
親会社株主に帰属する当期純利益								23,220
自己株式の取得								△2,814
自己株式の処分								75
自己株式の消却								-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動								△269
非支配株主に係る売建プット・オプション負債の変動等								△2,802
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	10,427	3	10,493	4,908	25,833	26	1,843	27,703
当期変動額合計	10,427	3	10,493	4,908	25,833	26	1,843	37,960
当期末残高	32,632	△0	22,037	11,438	66,107	648	20,271	474,383

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	32,373	36,808
減価償却費	39,456	40,779
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△139	△1,527
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△110	315
受取利息及び受取配当金	△1,917	△2,031
支払利息	1,965	3,361
持分法による投資損益 (△は益)	△137	△177
固定資産処分損益 (△は益)	630	531
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1,410	△7,060
投資有価証券評価損益 (△は益)	1,448	-
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,474	△12,450
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△24,875	△4,070
仕入債務の増減額 (△は減少)	△4,785	13,112
その他	△4,620	6,344
小計	34,402	73,935
利息及び配当金の受取額	1,942	2,057
利息の支払額	△1,955	△3,308
保険金の受取額	1,177	-
法人税等の支払額	△6,856	△10,771
営業活動によるキャッシュ・フロー	28,710	61,911
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△39,628	△61,315
有形固定資産の売却による収入	87	-
無形固定資産の取得による支出	△2,363	△3,951
投資有価証券の取得による支出	△909	△120
投資有価証券の売却による収入	2,509	9,856
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△1,132
貸付けによる支出	△99	△1,061
貸付金の回収による収入	336	282
その他	△1,902	△1,328
投資活動によるキャッシュ・フロー	△41,970	△58,771

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	21,814	△2,378
長期借入れによる収入	13,541	11,299
長期借入金の返済による支出	△6,198	△8,565
社債の発行による収入	-	10,000
リース債務の返済による支出	△863	△1,270
自己株式の取得による支出	△8,051	△2,814
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	△7,599	△7,139
非支配株主からの払込みによる収入	0	-
非支配株主への配当金の支払額	△284	△279
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△6	△372
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,352	△1,519
現金及び現金同等物に係る換算差額	894	926
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△13	2,547
現金及び現金同等物の期首残高	40,712	40,699
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	-	32
現金及び現金同等物の期末残高	40,699	43,278

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、ソリューション視点の成長戦略を遂行する組織として「Solutions Vehicle」を設置し、10個の「Solutions Vehicle」をソリューション別に4つのドメイン（「Solutions Unit」）に区分しております。各「Solutions Unit」は、取り扱う製品・サービスについて、国内及び海外の子会社と一体となったグローバル・グループ戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、ソリューション別のセグメントから構成されており、「Material Solutions Unit」「Quality of Life Solutions Unit」「Health Care Solutions Unit」及び「Nutrition Solutions Unit」の4つを報告セグメントとしております。

「Material Solutions Unit」は、社会インフラ・モビリティ(軽量化・燃費向上)の発展を支える優れた素材や、環境社会に直接役立つ生分解性バイオポリマーなどの先端素材をソリューションとして提供し、地球環境保護と快適な暮らしに貢献しております。「Quality of Life Solutions Unit」は、住宅や生活インフラなどの省エネ・スマート化ニーズや、IoT・AIの発達など情報化社会の革新に応える優れた素材と独自のサービスをソリューションとして提供し、省エネルギーと豊かな暮らしの創造に貢献しております。「Health Care Solutions Unit」は、医療・健康・介護等の分野において、デバイスと医薬の融合による価値あるソリューションを提供するとともに、バイオ医薬や再生・細胞医療など先端医療技術に基づく独自のヘルスケア事業を展開し、高齢化社会・医療高度化社会に貢献しております。「Nutrition Solutions Unit」は、「食」の多様化や健康増進ニーズに応える特色ある素材、サプリメントをソリューションとして幅広く提供するとともに、農業・畜産・水産分野の食料生産支援に寄与するソリューションを提供し、健康と豊かな「食」に貢献しております。

各報告セグメントに属するSolutions Vehicle及び主要製品は、次のとおりであります。

Solutions Unit (報告セグメント)	Solutions Vehicle	主要製品
Material Solutions Unit	Vinyls and Chlor-Alkali	一般用塩化ビニル樹脂、か性ソーダ、 塩ビ系特殊樹脂
	Performance Polymers(MOD)	モディファイヤー、エポキシマスタバッチ、 生分解性バイオポリマー
	Performance Polymers(MS)	変成シリコーンポリマー
Quality of Life Solutions Unit	Foam & Residential Techs	スチレン系発泡樹脂・成型品、 スチレン系発泡押出ボード、 発泡ポリオレフィン、 ソーラーサーキット工法（外断熱・二重通気工法）
	E & I Technology	ポリイミドフィルム、光学材料、 グラファイトシート
	PV & Energy management	太陽電池、住宅用蓄電池
	Performance Fibers	アクリル系合成繊維
Health Care Solutions Unit	Medical	医療機器
	Pharma & Supplemental Nutrition (Pharma)	低分子医薬品原料、API、バイオ医薬品
Nutrition Solutions Unit	Pharma & Supplemental Nutrition (Supplemental Nutrition)	機能性食品素材、乳酸菌
	Foods & Agris	マーガリン、ショートニング、パン酵母、 香辛料、不凍素材、乳製品、機能性肥料・飼料

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成において採用している会計処理の方法と同一であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報
前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	333,854	172,766	70,786	177,339	754,747	1,074	755,821	—	755,821
セグメント間の 内部売上高又は振替高	384	33	—	51	469	1,135	1,605	△1,605	—
計	334,238	172,800	70,786	177,391	755,216	2,210	757,426	△1,605	755,821
セグメント利益	27,449	16,131	15,682	7,585	66,849	554	67,404	△32,316	35,087
セグメント資産	293,447	212,030	86,846	119,893	712,218	462	712,681	69,958	782,640
その他の項目									
減価償却費	13,818	11,661	3,963	5,093	34,536	19	34,556	4,624	39,180
のれんの償却額	—	—	367	172	540	—	540	110	650
持分法適用会社への 投資額	69	2,584	—	—	2,654	—	2,654	—	2,654
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	10,642	9,885	5,229	3,718	29,476	101	29,577	14,770	44,348

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	322,902	176,182	74,856	187,182	761,123	1,178	762,302	—	762,302
セグメント間の 内部売上高又は振替高	225	47	—	47	320	1,147	1,467	△1,467	—
計	323,127	176,230	74,856	187,229	761,444	2,325	763,769	△1,467	762,302
セグメント利益	27,495	15,361	12,941	12,076	67,875	667	68,542	△35,963	32,579
セグメント資産	318,282	222,946	108,205	127,832	777,267	521	777,789	92,416	870,205
その他の項目									
減価償却費	14,388	11,562	4,397	5,300	35,648	16	35,664	4,841	40,505
のれんの償却額	—	—	402	153	556	—	556	119	675
持分法適用会社への 投資額	72	2,742	—	—	2,814	—	2,814	—	2,814
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	20,513	12,282	11,073	5,451	49,320	18	49,339	24,062	73,401

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	66,849	67,875
「その他」の区分の利益	554	667
セグメント間取引消去	1	1
全社費用(注)	△32,422	△36,053
その他の調整額	103	88
連結財務諸表の営業利益	35,087	32,579

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

(単位:百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	712,218	777,267
「その他」の区分の資産	462	521
セグメント間取引消去	△11,171	△12,929
全社資産(注)	81,162	106,416
その他の調整額	△32	△1,069
連結財務諸表の資産合計	782,640	870,205

(注) 全社資産は特定の報告セグメントに帰属しない全社共通の余資運転資金、投資有価証券及び土地等でありませ

(単位:百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額(注)		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	34,536	35,648	19	16	4,624	4,841	39,180	40,505
のれんの償却額	540	556	—	—	110	119	650	675
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	29,476	49,320	101	18	14,770	24,062	44,348	73,401

(注) 調整額には主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発関連が含まれます。

(関連情報)

地域ごとの情報

(売上高)

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

日本	アジア	北米	欧州	その他地域	合計
414,250	152,059	74,625	77,903	36,983	755,821

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:百万円)

日本	アジア	北米	欧州	その他地域	合計
427,433	149,390	69,318	81,811	34,348	762,302

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(1株当たり情報)

1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	6,431.63円	7,068.91円
1株当たり当期純利益	349.59円	357.90円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	348.66円	356.87円

項目	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	23,008	23,220
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	23,008	23,220
普通株式の期中平均株式数(千株)	65,815	64,879
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(千株)	175	187
(うち新株予約権)(千株)	(175)	(187)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。